

名称 テンナンショウ (2)

他名等

部位等 塊茎 (天南星<テンナンショウ>)

備考

学名 (科名) *Arisaema consanguineum* Schott (Araceae) サトイモ科

其原植物和名等 アリセマ・コサグィネウム

医薬品として使用実態があるか Yes (局外生規収載)

210 処方中の配合処方 : (2 処方) 清湿化痰湯、二朮湯

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等 lectins

主要な生理活性

鎮静、止痛作用、去痰作用、抗腫瘍作用があり、催眠剤、鎮痛剤、鎮静剤、止痛剤、去痰剤、抗癌剤などに用いる。

重要文献

- 1) Shangary S. *et al. Immunological Investigations*, **25**, 273-278 (1995)
- 2) Shangary S. *et al. Phytochemistry*, **40**, 449-455 (1995)
- 3) 訂牧野和漢薬草大図鑑 : 604
- 4) 和漢薬百科図鑑 [1] : 35

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : A

植物を誤食すると中毒症状を起こし、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。

名称 テンナンショウ (3)

他名等

部位等 塊茎 (天南星<テンナンショウ>)

備考

学名 (科名) *Arisaema limbatum* Nakai et F. Maekawa サトイモ科 (Araceae)

其原植物和名等 ミミガタテンナンショウ

医薬品として使用実態があるか Yes (局外生規収載)

去痰、鎮痙には1日1~4gを水200mLで煎じて服用する。

210 処方中の配合処方：(2 処方) 清湿化痰湯、二朮湯

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

顕著な鎮静作用と去痰作用が認められ、鎮咳、去痰薬に用いる。また民間薬として生の球茎をすりおろし、腫れ物、肩こり、リウマチ、胸板などの患部に塗る。

重要文献

1) 牧野和漢薬草大図鑑：605

2) 和漢薬百科図鑑 [1]：35

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

植物を誤食すると中毒症状を起こし、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。

## 名称 テンナンショウ（４）

### 他名等

部位等 塊茎（天南星＜テンナンショウ＞）

### 備考

学名（科名） *Arisaema monophyllum* Nakai (Araceae) サトイモ科

其原植物和名等 ヒトツバテンナンショウ（一葉天南星）

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

去痰、鎮痙には1日1~4gを水200mLで煎じて服用する。

210 処方中の配合処方：（2 処方）清湿化痰湯、二朮湯

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

### 主要な生理活性

顕著な鎮静作用と去痰作用が認められ、鎮咳、去痰薬に用いる。また民間薬として生の球茎をすりおろし、腫れ物、肩こり、リウマチ、胸板などの患部に塗る。

### 重要文献

1) 牧野和漢薬草大図鑑：605

2) 和漢薬百科図鑑 [1]：35

### その他注意すべき点

薬用以外に食用にもなる。本来、球茎はそのままでは有毒であるが、多量の澱粉を含むので、これをすりつぶして何度も水にさらして、澱粉を集めれば食用になる。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

### 評価：A

植物を誤食すると中毒症状を起こし、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。

## 名称 テンナンショウ（5）

### 他名等

部位等 塊茎（天南星<テンナンショウ>）

### 備考

学名（科名） *Arisaema serratum* Schott (= *A. japonica* Blume) (Araceae) サトイモ科

其原植物和名等 マムシグサ（蝮草、蝮蛇草）、ヘビノダイハチ、ヤカゴンニャク、ムラサキマムシグサ

医薬品として使用実態があるか Yes（局外生規収載）

民間では腫れ物、肩こり、リウマチに吸出し薬として利用する場合は、天南星の粉末を酢で溶き、患部につける。

210 処方中の配合処方：（2 処方）清湿化痰湯、二朮湯

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

### 主要な生理活性

顕著な鎮静作用と去痰作用が認められ、鎮咳、去痰薬に用いる。また民間薬として生の球茎をすりおろし、腫れ物、肩こり、リウマチ、胸痛などの患部に塗る。

### 重要文献

- 1) 牧野和漢薬草大図鑑：606
- 2) 和漢薬百科図鑑 [1]：35

### その他注意すべき点

マムシグサは有毒なので民間での飲用は避けた方がよい。

Botanical Safety Handbook Class2b (*A. japonicum* として)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

### 評価：A

植物を誤食すると中毒症状を起こし、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。

## 名称 テンナンショウ (6)

### 他名等

部位等 塊茎 (天南星<テンナンショウ>)

### 備考

学名 (科名) *Arisaema urashima* Hara (= *A. thunbergii* Bl. var. *urashima* Makino) (Araceae) サトイモ科  
其原植物和名等 ウラシマソウ (浦島草)

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

1日1~4gを煎じて服用する。また、民間では生の塊茎を練り下し、腫れ物、肩こり、リウマチ、胸痛などに外用することがある。

210 処方中の配合処方：(2 処方) 清湿化痰湯、二朮湯

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

### 主要な生理活性

顕著な鎮静作用と去痰作用が認められ、鎮咳、去痰薬に用いる。

### 重要文献

- 1) 牧野和漢薬草大図鑑：606
- 2) 和漢薬百科図鑑 [1]：35

### その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

### 評価：A

植物を誤食すると中毒症状を起こし、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており専ら医薬品と考えられる。

名称 テンマ

他名等

部位等 塊茎（天麻<テンマ>）

備考

学名（科名） *Gastrodia elata* Blume (Orchidaceae) ラン科

其原植物和名等 オニノヤガラ（鬼矢柄）、ヌスビトノアシ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

頭痛、めまいなどには1日量3~6gに200mlの水を加え、半量になるまで煎じつめ、3回に分けて服用する。

210 処方中の配合処方：（1 処方）半夏白朮天麻湯

毒性データ（LD50等） エキス：LD50 3.98 g/kg (mouse iv)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

*N, N*-bis(4-hydroxybenzyl)hydroxylamine, *S*-(4-hydroxybenzyl)glutathione

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

gastrol, gastrodin, parishin, parishin B, bis(4-hydroxybenzyl)ether

主要な生理活性

顕著な鎮静作用と去痰作用が認められ、鎮咳、去痰薬に用いる。

重要文献

- 1) Hao, X. Y. *et al. Chin. Chem. Lett.*, **10**, 467-468 (1999)
- 2) Andersson, M. *et al. Phytochemistry*, **38**, 835 (1995)
- 3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：671

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 55

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

アルカロイド等を含み、局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。

名称 テンモンドウ

他名等

部位等 根（天門冬<テンモンドウ>）

備考 種子・葉・花は「非医」

学名（科名） *Asparagus cochinchinensis* Merrill (Liliaceae) ユリ科

基原植物和名等 クサスギカズラ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方：14 局第一追補

生薬 1 日 6~12 g を水 500~600ml で半量になるまで煎じ、煎液を分けて服用する。

210 処方中の配合処方：（1 処方）滋陰降火湯

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの（類似化合物）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

pseudoprotodioscin, pseudoprotoneodioscin, Asp IV, V, VI, VII, 5-hydroxymethyl-2-furancarboxaldehyde

主要な生理活性

鎮咳、利尿、緩和、滋養、強壮薬に用いる。

重要文献

- 1) Liang, Z. *et al.*, *Planta Med.*, **54**, 344 (1988)
- 2) Konishi, T. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, **27**, 3086 (1979)
- 3) Shen, Y. *et al.*, *Planta Med.*, **56**, 472 (1990)
- 4) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：619

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 17

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

局方収載生薬で漢方処方にも配合されている。

名称 トウガシ

他名等

部位等 種子（冬瓜子＜トウガシ＞）

備考 果実は「非医」

学名（科名） *Benincasa cerifera* Savi, *B. cerifera* Savi forma *emarginata* K. Kimura et Sugiyama (Cucurbitaceae)

ウリ科

其原植物和名等 トウガ（冬瓜）、カモウリ、トウガン

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規、局方 15 局収載予定

腫れ物があり、むくみがあるとき、冬瓜子 1 日量 3~12g に 400ml の水を加え、半量になるまで煎じ詰めたものを 3 回に分けて服用する。

210 処方中の配合処方：（1 処方） 大黄牡丹皮湯

毒性データ（LD50 等） エキス： LD50 147mg/kg (mouse ip), trigonelline: LD50 5000mg/kg (mouse orl)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

adenine, trigonelline

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

isomultiflorenyl acetate

主要な生理活性

消炎、利尿、緩下、などの作用があるとされ、鎮咳、去痰、排膿、消炎利尿薬として肺の痛み、腹痛、水腫、内臓膿瘍、吐血などに用いられる。

重要文献

- 1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：512
- 2) 小島保彦ら：和漢医薬学会誌, 1, 73 (1984)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 19

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

アルカロイド等を含み、局外生規収載、局方収載予定生薬で漢方処方にも配合されている。



名称 トウキ

他名等 オニノダケ/カラトウキ

部位等 根

備考

学名(科名) ①*Angelica acutiloba* Kitagawa ②*A. acutiloba* Kitagawa var. *sugiyamae* Hikino ③*A. sinensis* (Oliv.) Diels ④*A. gigas* Nakai セリ科 (Umbelliferae)

基原植物和名等 ①トウキ②ホッカイトウキ③カラトウキ④オニノダケ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載 (①②のみ) (CP 収載)

当帰。漢方で補欠、強壯、鎮痛、沈静を目標に冷え症、貧血、血行障害など各種の婦人科疾患に広く用いる。

210 処方中の配合処方：56 処方 (胃風湯、温経湯、温清飲、乙字湯、加味帰脾湯、当帰芍薬散など)

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等) Root of *A. sinensis* (Oliv) Diels: TDLo = 1.4 g/kg (rat, oral)

Root extract of *A. sinensis* (oliv.)Diels: LD<sub>50</sub> = 100 g/kg (mouse, i.v.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

ligustilide, safole (LD<sub>50</sub> = 1950 mg/kg (rat, oral))、*n*-butylidene phthalide (LD<sub>50</sub> = 1850 mg/kg (rat, oral))、*n*-butylphthalide (LD<sub>50</sub> = 2450 mg/kg (rat, oral)) などのフタライド類を主成分とする精油、フロクマリン類の bergapten (LD<sub>50</sub> = 8100 mg/kg (mouse, oral))、decursin, decursinol, ポリアセチレン類の faltarindiol, faltarinol, carvacrol (LD<sub>50</sub> = 810 mg/kg (rat, oral))、camphene LD<sub>50</sub> > 5 g/kg (rat, oral)、isosafole (LD<sub>50</sub> = 1340 mg/kg (rat, oral), TDLo = 47 mg/kg (man, multiple))、*p*-cymene (LD<sub>50</sub> = 1695 mg/kg (mouse, oral), TDLo = 3 g/kg (human, oral))、palmitic acid, linoleic acid, oleic acid、*o*-valerophenone carboxylic acid,  $\beta$ -sitosterol, nicotinic acid, vitamin B12, folic acid, folinic acid, biotin

主要な生理活性

ligustilide, *n*-butylidene phthalide に抗アセチルコリン作用が知られている。

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p346, 347, 352, 715), 原色和漢薬図鑑 (上 p59), Phytochemical dictionary 2<sup>nd</sup> Edition Harada et al., *J. Pharm. Dyn.* 7, 304-311 (1984).

#### その他注意すべき点

70%メタノールエキスにラットの子宮に対する収縮作用が報告されている (Harada *et al.*)。

Botanical Safety Handbook *A. sinensis*: Class 2b (子宮に対して刺激作用と緩和作用の両方が報告されている。カナダでは妊娠中の使用に関する警告を表示することが要求されており、また、医薬品以外への使用が禁止されている)

The Complete German Commission E Monographs 無記載。 *Angelica root (Angelica archangelica)*に含まれる furanocoumarin により光線過敏性皮膚症が引き起こされる可能性がある。

#### 評価：A

局方に収載される重要な生薬である他、子宮に対する収縮作用が報告されており、使用には注意が必要である。また、カナダでは医薬品以外への使用が禁止されている。

名称 トウジン

他名等 ヒカゲノツルニンジン

部位等 根

備考

学名 (科名) ①*Codonopsis pilosula* (Franch.) Nannf. ②*C. tangshen* Oliv. キキョウ科 (Campanulaceae)

基原植物和名等 ①ヒカゲノツルニンジン ②トウジン

この他、牧野和漢薬草大図鑑では上記の2種に加えて *C. silvestris* Kom. (ヤマツルニンジン)、*C. pilosa* Nannf. var. *modesta* L. T. Shen (*C. modesta* Nannf.)、*C. tubulosa* Kom. が用いられるとしている。また、原色和漢薬図鑑では上記の2種に加えて *C. nervosa* (Chiff.) Nannf. と *C. clematidae* Clarke. が用いられるとしている。

医薬品としての使用実態があるか No (CP 収載)

党参。去痰薬、強壮薬だが、わが国では薬膳や薬用酒での使用が多い。

毒性データ (LD50 等)

Polysaccharide of *C. pilosula* (Franch.) Nannf.: LDLo = 90 g/kg (mouse, oral); LD<sub>50</sub> = 20.89 g/kg (mouse, i.v.)

Extract of *C. pilosula* (Franch.) Nannf.: LD<sub>50</sub> = 1.7 g/kg (mouse, i.v.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

①β-carboline alkaloid の perlyryrine を含む。含量 0.17mg/kg

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

②サポニン、アルカロイド、多糖類、精油、plantaginin=scutellarein-7-O-β-D-glucoside

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p523, 524) , 原色和漢薬図鑑 (上 p121)

Liu et al. *Planta Med.* **54**, 472 (1988).: perlyryrine from *C. pilosula*

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: C

毒性が不明のアルカロイドが含有されるので、調査が必要である。

名称 トウシンソウ

他名等

部位等 全草

備考

学名 (科名) *Juncus effusus* L. var. *decepiens* Buchem. イグサ科 (Juncaceae)

基原植物和名等 イ、イグサ

医薬品としての使用実態があるか Yes (CP 収載)

灯心草または燈心草。利尿、解熱、鎮痛薬。

210 処方中の配合処方：3 処方 (加味解毒湯、実脾飲、分消湯)

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

フラボノイドの luteolin (LD<sub>50</sub> = 180 mg/kg (mouse, i.p.)), effusol, dehydroeffusol などのフェナントレン誘導体、多糖類の xylan, araban, methylpentosan

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p612), 原色和漢薬図鑑 (下 p19)

Shima *et al.*, *Phytochemistry* **30**, 3149-3151 (1991): phenanthrene derivatives

その他注意すべき点

近縁の *Juncus roemerianus* より細胞毒性を持つフェナントレン誘導体が同定されている。(Shima *et al.*)

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：C

フェナントレン誘導体が含まれる。フェナントレン誘導体には変異原性が知られているものがあるため、調査が必要である。

名称 トウツルキンバイ

他名等 アンゼリナ

部位等 全草

備考

学名 (科名) *Potentilla anserina* L. = *Argentina anserina* (L.) Rydb. バラ科 (Rosaceae)

基原植物和名等 エゾツルキンバイ、ヨウシュツルキンバイ

医薬品としての使用実態があるか No (欧州では Yes。Com E 収載)

Com E によれば、軽度の月経不順、軽度の非特異的な急性の下痢、口腔と咽頭の粘膜の軽い炎症などに用いられる。

牧野：脾や胃を健康にする作用があり、収斂薬として下痢止めとする。

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

塊根に tannic acid、エラジタンニンの pedunculagin、トリテルペン配糖体の tormentol (構造不詳)、フラボノイド、葉に myricetin、epicatechol

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p173)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載。同属植物 *Potentilla erecta*: Class 1

The Complete German Commission E Monographs 副作用として、胃の不快感が悪化することが知られている。

評価：A

活性成分は不明であるが、子宮の緊張を強め、収縮間隔をせばめる作用が知られており、安全性に配慮が必要である。また、ドイツで医薬品として使用されている。なお、和名はエゾツルキンバイにすべきではないかと思われる。

名称 トウニン

他名等

部位等 種子

備考

学名 (科名) ①*Prunus persica* Batsch. (= *P. vulgaris* Mill.)

②*P. persica* Batsch.var. *daurica* Maximowicz (= *P. davidiana* (Carr.) Franch)バラ科 (Rosaceae)

基原植物和名等 ①モモ②ノモモ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載 (CP 収載)

桃仁。鎮咳、去痰薬。漢方では鎮咳去痰また緩下を目標に用いる。

210 処方中の配合処方：14 処方 (芍帰調血飲第一加減、桂枝茯苓丸、甲字湯、牛膝散、滋血潤腸湯など)

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

青酸配糖体 amygdalin (LD<sub>50</sub> = 405 mg/kg (rat, oral))、prunasin

amygdalin は emulsin や腸内の β-glucosidase により水解して benzaldehyde, HCN, glucose になる。

KCN の毒性は TDLo = 14mg/kg, LDLo = 170mg (成人) である。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

emulsin、オレイン酸とリノール酸のグリセリンエステル

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p177, 181) , 原色和漢薬図鑑 (上 p276)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2b, 3 (cyanogenic glycosides (amygdalin, 2.0 – 6.0%))

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：A

青酸配糖体の amygdalin を含み、Botanical Safety Handbook で Class 2b, 3 と評価されているため、安全性に配慮が必要である。

名称 トウリョウソウ

他名等

部位等 全草

備考

学名 (科名) *Rabdosia rubescens* (= *Isodon rubescens*) シソ科 (Labiatae)

基原植物和名等

医薬品としての使用実態があるか No

冬凌草。中国でガンの治療薬として用いられる。血管新生抑制作用などが知られている。

毒性データ (LD50 等)

ジテルペンの oridonin=rubescensin A, LD<sub>50</sub> = 35 mg/kg (mouse, i.p.), ponigidin=rubescensin B, LD<sub>50</sub> = 55.8 mg/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

ジテルペンの oridonin (=rubescensin A, LD<sub>50</sub> = 35 mg/kg (mouse, i.p.)), ponigidin (=rubescensin B, LD<sub>50</sub> = 55.8 mg/kg (mouse, i.p.)), rubescensin C, ジテルペン配糖体の enmenol 1-O-β-D-glucopyranoside、フラボンの pedalitin

主要な生理活性

重要文献

Meade-Tollin *et al. J. Nat. Prod.* **67**, 2-4 (2004): oridonin と ponigidin の血管新生抑制作用

Sun *et al. Chem. Pharm. Bull.* **30**, 341-343 (2004): rubescensin C の単離・構造決定

Liu *et al. Chem. Pharm. Bull.* **48**, 148-149 (2004): ジテルペン配糖体の単離・構造決定

その他注意すべき点

中薬の輸入販売サイトでは冬凌草片を「とうりんそうへん」と読ませるものが多い。

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価: A

血管新生抑制作用など顕著な作用を示し、また、劇薬相当の毒性を示すジテルペンを含む。

名称 ドクカツ (1)

他名等 ウド

部位等 根茎

備考

学名 (科名) *Aralia cordata* Thunb. ウコギ科 (Araliaceae)

基原植物和名等 ウド

日本産の和独活、韓国産の独活及び中国産の九眼独活はウド *Aralia cordata* Thunb. である。*A. henryi* Harms もあり。(原色和漢薬図鑑)

医薬品としての使用実態があるか Yes 局外生規の独活

局外生規の記述：ウド *Aralia cordata* Thunb. の、通例、根茎である。

発汗、解熱、鎮痛作用があり、風邪、頭痛、めまい、リウマチ、神経痛、関節炎などに用いられる。

210 処方中の配合処方：5 処方 (荊防敗毒散、十味敗毒湯、清上蠲痛湯、独活葛根湯、独活湯)

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

limonene、sabinene、 $\alpha$ -pinene、myrcece、terpinene、ジテルペンとして *ent-kaur-16-en-19-oic acid*、*ent-pimara-8(14), 15-dien-19-oic acid*

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p337, 715) , 原色和漢薬図鑑 (上 p116)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載だが、同属の *A. californica*, *A. nudicaulis*, *A. racemosa* (アメリカのカンショウコウ) が 2b

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価：B

食品として不適當なほど毒性が高いわけではないが、局外生規に収載され重要な漢方処方にも用いられるなどわが国では重要生薬である。



## 名称 ドクカツ (2)

他名等 シシウド

部位等 根茎

備考

学名 (科名) *Angelica pubescens* Maxim.とその近縁種 セリ科 (Umbelliferae)

基原植物和名等 シシウド

中国産独活の主なものは、セリ科の *Angelica* 属植物の根であり、市場では川独活 (巴東独活、資邱独活、肉独活) および香独活 (統独活、山独活) に分けられる。川独活は *A. laxiflora* Diels, *A. megaphylla* Diels, *A. moellendorffii* Hance, *A. kiusiana* Maxim., *A. laevigata* Fr. および *A. inaequalis* Maxim. など。香独活はシシウド *A. pubescens* Maxim. および *A. grosseserrata* Maxim. など。そのほか中国には牛尾独活、九眼独活がある。(原色和漢薬図鑑)

*A. dahurica* Benth. et Hook. はビャクシなので含まれない。

医薬品としての使用実態があるか Yes 局外生規の唐独活 (CP 収載)

局外生規の記述: シシウド *Angelica pubescens* Maximowicz 又はその他近縁植物の根である。

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

精油、クマリン誘導体の angelicone (=glabralactone), angelical (=7-methoxy-6-coumarinaldehyde), umbelliferone (LD<sub>50</sub> = 450 mg/kg (mouse, i.v.)), scopoletin (LD<sub>50</sub> = 3800 mg/kg (rat, oral)), tiglic acid (LD<sub>50</sub> > 5 g/kg (rat, oral)), angelic acid, palmitic acid などを含む。

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p351, 715), 原色和漢薬図鑑 (上 p116)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook *A. pubescens* Maxim.: Class 2d (光線過敏性皮膚症を引き起こす可能性がある), 同属 *A. dahurica* (Fischer ex Hoffm.) Franch. et Sav. (ビャクシ): Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

現行のドクカツはドクカツ (ウド) とトウドクカツ (シシウド) に分離する必要がある。

評価: E

産地によって使用される植物種が異なるが、食品として不適當なほど毒性が高いものはない。また、局外生規に収載されるものの現在のところわが国では唐独活は使用されていない。以上のことより見直しの対象になると考えられる。

名称 トコン属

他名等 トコン

部位等 根茎

備考

学名 (科名) *Cephaelis* 属。局方では *C. ipecacuanha* (Brot.) A. Richard (リオ吐根) または *C. acuminata* Karsten (カルタゲナ吐根) アカネ科 (Rubiaceae)

基原植物和名等

ブラジル産がリオ吐根、コロンビア産がカルタゲナ吐根(*C. acuminata*)、マレーシアに移植したものをジョホール吐根と呼ぶ。

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載

吐剤、去痰薬。抗原虫薬エメチンの製造原料。

毒性データ (LD50 等) emetine (LD<sub>50</sub> = 12 mg/kg (rat and mouse, i.p.))

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

イソキノリンアルカロイドである emetine (LD<sub>50</sub> = 12 mg/kg (rat and mouse, i.p.))、cephaeline、psychotrine、ipecamine、ipecoside、emetamine、インドールアルカロイドである tubulosine。含量は total で 2~3%である。

*C. ipecacuanha* 由来は主成分がエメチン、*C. acuminata* 由来はエメチンとセファエリンが同程度含まれる。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p495) , Phytochemical dictionary 2<sup>nd</sup> Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 2b, 2d (催吐作用を示すことがある。長期間の投与には向かない。心臓病に禁忌がある)

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ) Yes

エメチン、トコンシロップ

評価: A

劇薬相当の emetine など、作用の強いイソキノリンアルカロイドを含む。

名称 トシシ

他名等 ネナシカズラ/マメダオシ

部位等 種子

備考

学名 (科名) ①*Cuscuta australis* R. Brown ②*C. chinensis* Lam. ③*C. japonica* Choisy ヒルガオ科  
(Convolvulaceae)

基原植物和名等 ①②マメダオシ ③ネナシカズラ

医薬品としての使用実態があるか No (CP には収載)

菟絲子または兔絲子。強精、強壯の効果がある。210 処方中の配合処方知られておらず、三子湯に配合されるが、わが国での処方少ないと考えられる。

毒性データ (LD<sub>50</sub> 等) Acidic polysaccharide from seeds of *C. chinensis* Lam: TDLo = 100 g/kg (mouse, i.p.)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

①β-, γ-carotene, 5,6-epoxy-α-carotene, taraxacin, lutein

②インドールアルカロイドの *cuscutamine*, リグナンの *cuscutosides A and B*, *gibberellin*, *cholesterol*, *campesterol*, β-*sitosterol*

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p430, 431), 原色和漢薬図鑑 (上 p281)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

同属の *Cuscuta monogyna* にインドールアルカロイドの *agroclavine* (LD<sub>50</sub> = 25 mg/kg (mouse, i.p.)) が含有されることが知られている。

評価: A

毒性未確認のインドールアルカロイドが含まれる。また、同属植物で毒性の強い *agroclavine* の含有が知られている。

名称 トチュウ

他名等

部位等 樹皮

備考

学名 (科名) *Eucommia ulmoides* Oliv. トチュウ科 (Eucommiaceae)

基原植物和名等 トチュウ

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方収載 (日局 14 第一追補) (CP 収載)

杜仲。強壯、強精、鎮痛薬として用いられる。

毒性データ (LD50 等) Hot water extract from leaf of *E. ulmoides* Oliv.: TDLo = 37.8 g/kg (rat, oral) Extract of *E. ulmoides* Oliv.: TDLo = 36 g/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

イソプレレン長鎖状重合体のグッタペルカ

イリドイド配糖体の aucubin

リグナンの eucommin A (medioresinol 4'-O-β-D-glucopyranoside), pinoresinol,

(+)-syringaresinol -O-β-D-glucoside

主要な生理活性

重要文献

牧野和漢薬草大図鑑 (p164) , 原色和漢薬図鑑 (下 p144) , Phytochemical dictionary 2<sup>nd</sup> Edition

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook Class 1

The Complete German Commission E Monographs 無記載

評価 : B

局方収載の重要生薬であるため専ら医薬品としておくことが望ましいが、食品として不適当なほど毒性が強いわけではない。